

2009朝霧カップ 競技規定

1) テイクオフ方法はタイムインターバルランチオーダーとする。

*タイムインターバルランチオーダー

a. テイクオフは待機ゾーンとテイクオフゾーンに分けられる。又、テイクオフゾーンの前には優先ゾーンを設ける。テイクオフゾーンへ入るためには、選手は優先ゾーンに並ばなくてはならない。

b. 優先ゾーンへ並ぶためには、決められた間隔（例：5分間隔）でゲート役員が意思確認をした際、優先ゾーンへ並ぶ意思を示した者が優先ゾーンへ進入することが出来る。同時刻に意思を示した選手が複数いた場合は、あらかじめ決められた優先順位順に優先ゾーンに並ぶ。一回のコールでレーンに入れる人数は優先順位の上位順に10名とする。また、一旦優先ゾーンへ並んだ選手は待機ゾーンへ戻ることは出来ない。（但し下記 d,e の項目によって待機ゾーンへ戻った選手を除く。また、d,e の項目で待機ゾーンへ戻った選手の優先順位は消滅するものとする。）

c. 選手は優先ゾーンに並ぶ前に機体のラインチェックをすまし、GPSを補足させた上でハーネスを装着し、機体を広げるとすぐにテイクオフできる状態で、優先ゾーンへ並ぶ意思を示さなければならぬ。

d. テイクオフゾーンの選手は、優先ゾーンに選手が並ばなかった場合フリーテイクオフとなるが、優先ゾーンに他の選手が並んだ場合は、テイクオフディレクターの指示から30秒以内にテイクオフするか、待機ゾーンへ戻らなければならない。また、何らかの理由によってテイクオフクローズとなった場合、先頭の選手はオープン後1分以内にテイクオフするか、待機ゾーンへ戻らなければならない。

e. テイクオフの失敗は2回まで許されるが、それでも失敗した場合はテイクオフゾーンを出て、待機ゾーンに戻る。再度のトライに時間がかかると思われる場合はテイクオフディレクターの指示に従う。

f. 優先順位は前日までの公式順位順とする。但し初日においては、エントリー締切日におけるワールドポイントランキング順とし、ワールドポイントランキングの無い選手間では、受付にて抽選し優先順位を決める。

2) リフライトの可否ならびに方法はタスクごとに決定する。

3) ランディング報告時刻を過ぎてフライトしていたことが役員により確認された選手はそのフライト失格とする。

4) ランディングした選手は速やかに大会本部に連絡をし、役員による回収を待つか自力で戻るかを告げる。

5) コンプレインは仮結果発表後30分以内（最終日においては10分以内）に競技委員長に対して行うこと。

6) プロテストは事件発生後30分以内（最終日においては10分以内）に供託金5千円を添え、書面にて競技委員長に対して提出すること。

7) アウトランディングした選手は誠意を持って対応すること。被害が出た場合は個人の責任で対応すること。